



2022年12月1日

第135号お知らせ版

NPO法人 響き合いネットワーク東京SPの会

NPO Resonate Network Tokyo SP

○11月8日(火)ボランティアセンター(飯田橋)で月例研修会が行なわれました。司会は大川さんで、参加者は15名でした。プログラムに沿って進行され、4グループに分かれてロールプレイを行いました。参加した田澤さんの感想です。たくさんの会員に参加してもらうにはロールプレイの施設を決めず OSCE に必要なものとならないものを区分してはどうかと思ったそうです。皆さんいかがですか。

○11月11日(金)相模原看護専門学校で医療面接がありました。当会からは9名のSPが参加しました。参加した佐野さんの感想です。



ベットからおちた患者役を演じています。

感想

相模原看護専門学校 臨床看護技術演習 (OSCE) に
SP (模擬患者) として参加 —感想—

佐野和三

その日の朝は落葉樹の葉が一層色づく晩秋の冷え込みであった。引き締まった寒気の中、間もなく看護師国家試験に臨む3年生のOSCEの為、相模原看護専門学校へ向かった。

今回のSPは「糖尿病で入院している入院9日目の患者役」です。病床からのナースコールで学生がどのように対応するかの演習です。設定は3通りあり1.2の設定には「NGワード」がありました。1の設定は「お腹が痛いんだよね」の症状でナースコール。学生からの問いについて、前日反復練習し覚えた、四つ五つの台詞をスムーズ？に腹痛演技で返答した。NGワードは「〇秘」。素直に言えないもどかしさに冷や汗タラリ。何とか無事に設定1を三人の学生で3回実施し、次の設定2の「何か気持ちが悪いです」の訴えでナースコール。3つ程の問答に、状況により学生からの症状の問いに、四つの台詞。学生が帰りそうになったら・・・ここで3日かけて覚えて長台詞「なぜ気持ち悪く・・・ですかね?」「気分を・・・廊下を・・・散歩・・・?」と学生に聞いてください設定。フ〜ッ！ 言えた〜。NGワードの「〇血糖、〇〇が下がって・・・」をグッと飲み込んでランチタイム。

美味しい仕出し弁当をいただき、午後の名演技に準備万端整え病床へ。3 の設定は「ベッドからの転倒」でナースコール。ベッドサイドに座り込み、お尻をさすっているところからスタート（写真）、電車の中で夢中で覚えた八つ程の台詞をなんなくこなす？本日の OSCE 無事終了。学生からの評価、教員からの評価、SP 演技の評価、さてさていかがでしたでしょうか。帰り支度をしたところで、担当の先生に SP のひとりとして感想を述べさせていただきました。SP の皆さんお疲れ様でした。帰路はなぜか相模大野駅までタクシー乗車でした。

○11月12日(土)福島大学で OSCE がありました。大学養成の SP と当会の会員が参加しました。福島大ではいろいろな講習会が教育学会の先生を講師に勉強しました。その時のメンバーさんがいらして盛り上がりまし想は



打ち合わせに集中する SP

福島大の感想

鳴島睦子

1年振りに福島県立医科大学の OSCE に参加させていただきました。

試験当日、我々は外来待合室に集合し、先生の引率で試験開始前に行われる試験を担当する先生方が集まる会場に向かいました。会場では、学生の試験に試験官役を担う先生方(各大学から来ます)、並びに試験管の長として厚生省より派遣された監査責任者の先生・福島大学関係者の紹介が行われ、最後にわたくしたち「響き合いネットワークの東京 SP の会」も、模擬患者役を担うことでご紹介いただきました。それが終了すると、わたくし共は模擬患者の控室である部屋にとうされました。

ここでは福島大学の SP さん方とも同室となり、前年にお会いしていた SP さん方もいらしたことから和やかな挨拶を交わすことが出ました。さあ一試験開始時間が迫ってきました。いつものように緊張を和らげる意味もあり、まずは「トイレ」に・・・(笑い)。この試験で当会の役割は身体診察を含んだ模擬患者役でした。しかし、当初、わたくしは緊張の中で自分の役割をおこなうことが精一杯だったため、気がつかなかったのですが、福島大学の SP さんたちは、1年生の男子学生さんと2人一組で模擬患者役を担っていることを知り、昔の自分の経験を思い出し、評価表をつけることの難しさに「ワー大変だなー」と同情してしまいました。

緊張の中で始まった模擬患者役は、一場面ごとに繰り返される反省とは名ばかりのわたくしとは違い、学生さんの成長には目を見張る点が多いというのが今年の学生さんだった様に思います。

それは、模擬患者であるという自分の立場をつい忘れ、笑顔が自然に出てしまう場面があったからです。模擬患者としての演技をしながら、心の中で「この学生は将来優秀な医師になるかも・こんな先生なら自分の病気はむよくなるかも」という自然な心の動きを感じた学生根板からです。

反面、とても印象に残る学生さんがいました。それは「極度の緊張からきているのかな?」と思われることが起こったからです。それは、身体診察の時です。「ベットに横になってください。」ということで横たわっていた時、わたくしのおなかの上に「ポトン・ポトン」と汗が落ちてきたからです。

本人は、小声で「すみません」と謝り、診察を続けていましたがその状態は、診察椅子に戻ってからも止まらず汗が目に染みている…と感じられるくらいの大量の汗をかいていました。わたくしはこのような場面に遭遇した経験がなかったので、「なんという言葉が掛けたらよいのだろう…でも今は試験中だし」ということで、心の動揺はあったものの、わたくしは何も言わずに試験部屋を後にしました。極度の緊張は誰にでもあるとわかっていても、1人の学生の将来も左右する…かも…と思うと、その後、どうなったのが今も心に残っています。

それだけに、極度の緊張からくる試験に挑んでいる姿は、逆に感動すら痛感することとなりました。

○11月13日(日)群馬大学のOSCEに12名のSPが参加しました。前泊でしたが朝食は福島と違ってまずかったです。連日でしたので皆さんお疲れさまでした。でも学生さんはすごかったです。今までこんなほほえみを浮かべながら導入されたり椅子をすすめてくれた学生さんはいませんでした。問題は椅子です。小さくて不安定で座っていても硬くてつらかったです。せめて背もたれでもあればと思いました。

近藤さんの感想文です。

群馬大学の医療面接について

近藤 久恵

コロナで3年ぶりとなった11月13日(日)、群馬大学医学生の医療面接が行われました。朝が早いので前日に東京から約100km離れた前橋へ向かいました。東京駅から新幹線で高崎駅へ、高崎駅から両毛線に乗り換えて前橋にたどり着きました。北関東、朝晩は少し寒かったが、天候に恵まれ暖かかったです。12名の我々4模擬患者がaからhの8部屋に分かれ、各々4年生の学生10名の面接を行いました。わたくしの担当したすべての学生さんは、次々とスムーズに症状を聞き出し、落ち着いており、しっかり勉強している成果が出されているので感心しました。身だしなみ、患者に寄り添う態度や言葉、教官もあって今後大いに期待を持つことができました。

○11月21日に事務所に新しい印刷機が入りました。紙詰まりで困っていたのですが、これで解決です。

○11月22日(火)突然、相模原看護専門学校から病院実習に参加できない学生さんへのSOSで森さんと長谷川さんをお願いしました。長谷川さんは取手からなので朝5時にお家を出たとのこと。お疲れさまでした。

○同じ日に神奈川歯科大学の練習が入っていました。SPがぐるぐる回って学生さんと面接しました。



学生さんのグループ別に指導の先生が注意事項を話す間SPはシナリオの確認。写真は佐伯さんがとってくださいました。

感想

神奈川歯科大学医療面接に参加して

大川記代

新型コロナ感染者が連日最多数記録更新される中 11月22日(火) 神奈川歯科大学4年生の医療面接に参加しました。大きな多目的室と臨床実習室を会場に1チーム10数名の学生が10チームに組まれ、そこにSP10名が対応しました。試験開始直前にわたされた模擬患者名リストがシナリオと異なる患者氏名が書かれドタバタ大慌てで修正する場面がありましたが無事スタート出来ました。10チームがロールプレイで5分、フィードバック4分、移動1分というタイムスケジュールで始まりました。フィードバックは代表で医師役の学生→評価者役の学生→SP→指導教官の順番で行われましたが、指導教官によってはSPのみのフィードバックであとは教官がまとめを述べるにとどまるチームや、学生全員に感想を述べさせるチームとやや指導にばらつきがありました。しかし、SPと学生の間で会話が弾み拍手をもって問答の出来栄を評価する場面もあり和やかで活気に満ちたロールプレイとなりました。4年生ともなると良く勉強しているせいでしょう緊張して言葉が出てこない学生もいましたが、かなり滑らかに質問が出されSPとしても答えが楽でした。ただ欲を言えば口腔内のことと、身体全身のことが整理されず交りあって質問されるケースが多かったことは残念でした。ただ昨年も同じロールプレイを行っていますがこの試験が昨年のアンケートから80%以上の学生さんにとって患者対応の参考になったと答えてくださっていることはSPにとってもやりがいがある規格であると改めて思いました。

○11月30日(水)は昭和大学恒例の富士吉田校での1年生との医療面接です。身体接触もあります。11名のSPが事前にコロナの抗原検査を終えて参加しました。

抗原検査は1日間のみ有効ですので29日に検査しなおしました。

残念な報告です。30日に富士吉田に向かっていた私共にタクシーの予約をしていた業者さんから電話で、本日はコロナの発生で授業がないとのことですが予約通りでよいのかとの電話が入りました。急いで学校に確認したところ中止との返事でしたので参加途中でしたが帰宅しました。

家に帰ってから分かったことですが先生方がSPの代わりに患者になりズームで行ったと聞きました。

今年は富士吉田の学生さんにお会いできませんでした。

お知らせ

監事をお願いしていた鈴木節子さんが退会しました。病気のため活動ができなくなったとのこと。

お大事にしてください。

中川さんがまた手伝ってくださいます。うれしいことです。

12月もたくさんの依頼が入っています。皆さん頑張ってください。